

子ども会育成連絡協議会振興事業



取組地区：祝吉地区
取組年度：平成 29 年度
事業主体：祝吉地区社会教育関係団体等連絡協議会
事業費：432,000 円（基金活用額：432,000 円）
問い合わせ：23-2890（祝吉地区公民館）

課題・取組みの概要

- 課題：地区内に小学校が 2 校あるが、学年間や学校間の交流が少ない。
- 概要：アジャタ（玉入れ）用具 4 セットを購入した。
毎年 8 月に子育連と共催により、祝吉地区子ども会交流大会（アジャタ大会）を実施している。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 成果：地区内の小学校 2 校の児童によりチーム編成し大会を実施、これにより学校間及び学年間の交流ができた。
- 工夫した点：各小学校へアジャタ大会参加申込書を配布し、学校ごとに集約をお願いした。

今後の課題・アドバイス等

- 今後の事業継続の方向性：毎年実施を検討する。
- 今後、解消すべき点：祝吉地区子育連役員が、毎年交代するため事業の引継ぎが十分でない場合がある。

スマイルカフェ祝吉賑わいづくり事業



取組地区：祝吉地区

取組年度：平成 30 年度

事業主体：祝吉地区社会福祉協議会

事業費：179,020 円（基金活用額：150,220 円）

問い合わせ：080-2772-9661

課題・取組みの概要

- 都城市生活自立相談センターが支援する世帯の中には、経済的な困窮に限らず、病気や障がいなどで悩んでいる人や、ひとり親世帯、外国籍の人など、その背景は多様である。
- こうした世帯の中には人とのつながりが希薄であったり地域環境に慣れず、社会で孤立していたりしている場合も少なくない。
- そうした世帯への支援として、つながりやふれあい、新たな出会いのきっかけになることを目指して「スマイルカフェ祝吉」を開催する。
- 毎月 1 回、主に第 3 土曜日に地区公民館にて「食の支援」及び「居場所づくり」を行う。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 初めての取り組みであったが、民生委員児童委員協議会や施設等連絡会加盟施設、女性連絡協議会、大学生ボランティアなど地域の様々な機関に協力をもらいながら実施できた。
- 保育士によるレクリエーションを行い、子どもが楽しく過ごしながらも保護者も休めるよう配慮した。また、料理の配膳や盛り付けを一緒に行う中で、生活習慣の定着を目指した。
- 参加者の負担にならないよう一家族当たり 100 円を負担してもらい、一食 300 円を目安に食事を提供するなど事業費軽減にも努めた。
- 不登校の児童生徒も毎回参加していて、居場所づくりの支援にもつながっている。

今後の課題・アドバイス等

- 未就学児から高校生までと対象が幅広いため、「料理の手伝いが困難な子どもが参加する時間を決める必要がある」ことや役割分担の不明確さ、負担の差など事前準備の確認不足があがった。詳細についても、打ち合わせを密に行うことが重要課題である。

スマイルカフェ祝吉賑わいづくり事業



取組地区：祝吉地区
取組年度：令和元年度
事業主体：祝吉地区社会福祉協議会
事業費：226,853 円（基金活用額：207,553 円）
問い合わせ：080-2772-9661

課題・取組みの概要

- 都城市生活自立相談センターが支援する世帯は、経済的困窮に限らず、病気や障がいで悩んでいる人や、ひとり親世帯、外国籍の人など多様である。また、こうした世帯の中には人とのつながりが希薄なため地域環境に慣れず、孤立している場合も少なくない。そのような世帯への支援として、つながりやふれあい、新たな出会いのきっかけづくりのため、毎月1回、第3土曜日に地区公民館にて「食の支援」及び「居場所づくり」を行う。令和元年度は10回開催し、参加者総勢266名となった。

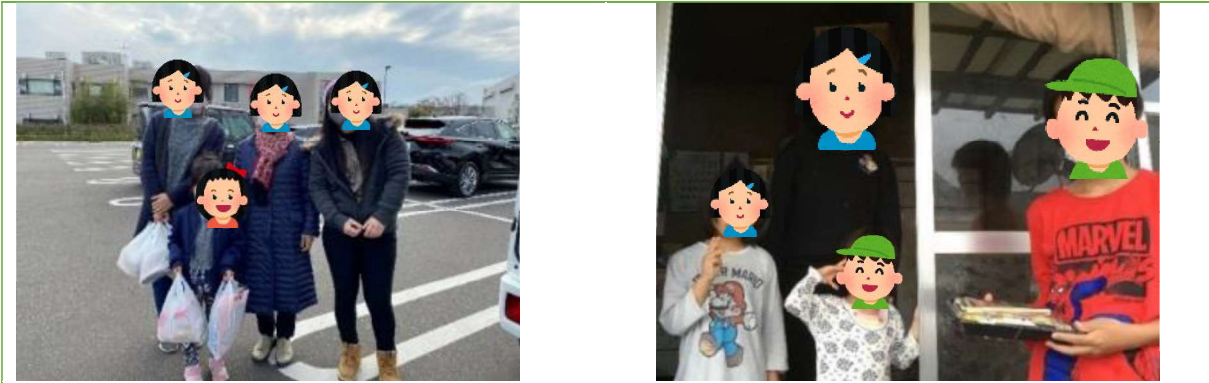
成果・事業の特徴・工夫したこと

- 生活支援として、手洗いや歯磨き指導などを行った。食事の配膳などは、進んで取り組む様子もみられた。地区公民館に来ることが困難な世帯に対しては、都城市社会福祉協議会の車を用いて送迎を行い参加しやすくなるよう工夫した。対象が未就学児から高校生ままで幅広く、料理の手伝いが困難な子どもが参加する時間を決める必要性があり、ふれあいの内容を決めて新聞シアターなどの遊びや小さい子どもでも盛り付けができるような料理をメニューに取り入れた。また、事前に実行委員会で打ち合わせのほか、料理班においても事前に打ち合わせを行うことで、当日円滑に実施することができた。

今後の課題・アドバイス等

- 今後は、外国籍の方が参加された場合も想定して、外国のお菓子や料理にも挑戦することで交流のきっかけとしたい。新型コロナウイルス感染拡大という未知の状況下でも、つながりを絶やさない取り組みを考えていく必要がある。

スマイルカフェ祝吉事業



取組地区：祝吉地区
取組年度：令和2年度
事業主体：祝吉地区社会福祉協議会
事業費：283,800円（基金活用額：234,000円）
問い合わせ：080-2772-9661

課題・取組みの概要

- 毎月1回、主に第3土曜日に地区公民館にて「食の支援」及び「居場所づくり」を行う。対象者は、地域で孤立している世帯や生活困窮世帯としている。新型コロナウイルス感染症の影響で例年開催していた集合型の会は中止となる。そこで、弁当配布に変更し、これまでのつながりを絶やさないためにも継続して事業を実施した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 毎月訪問し顔を見て声掛けを行うことで、地域住民とのつながりが継続された。訪問活動を通して、家庭の様子などが把握でき、さらなる支援につながった。対象者も毎回弁当配布を楽しみにしてくれており笑顔で迎えてくれ子どもたちの成長も楽しみとなった。11回実施し、計250個の弁当を配布した。また、新型コロナウイルス感染症の影響で都城市社会福祉協議会に来所される相談者も増え、新たにスマイルカフェ祝吉へつなぐことができた。また、12月にはクリスマスケーキの材料配布を行うなど参加者が自宅にいながらも楽しめるよう工夫した。

今後の課題・アドバイス等

- 令和2年度は弁当配食だったため、限られた時間の中で特定の人との関わりしか生まれず、参加者同士横のつながりなどが希薄化した。そのため今後は感染症対策を万全に行っただうえで、集う場をつくっていききたい。また、現在の参加者は子育て世帯が中心であるが、民生委員の情報などをもとに、地域で困っている高齢者なども事業の対象とする中で、地域でのつながりや居場所づくりを強化していきたい。

読み聞かせ本整備事業

読み聞かせの様子（菓子野小学校）



読み聞かせ本専用本棚



取組地区：庄内地区
取組年度：平成30年度
事業主体：庄内地区まちづくり協議会
事業費：758,379円（基金活用額：758,000円）
問い合わせ：37-3488

課題・取組みの概要

- 地区内小学校（庄内・菓子野・乙房）に、それぞれボランティアの読み聞かせグループがあり、定期的に読み聞かせを行っている。読み聞かせに適した本は、ある程度の大きさがあること、絵がよく見えるなどの条件があるが、各学校図書館には条件に合う蔵書が少ない状況にあった。
- 読み聞かせ用の本399冊と本棚を整備。庄内小・乙房小・菓子野小に配付し、3校の読み聞かせグループが定期的に入れ替えを行いながら、子どもたちへの読み聞かせに活用する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 蔵書が増えたことで、読み聞かせ時間を延長する学校がでてきた。
- 読み聞かせグループ同士の交流会が開催され、読み聞かせのスキルアップが図られた。
- 読み聞かせグループが本の管理簿を作製し、本の入れ換えや管理を行っている。

今後の課題・アドバイス等

- 定期的に読み聞かせグループと意見交換を行い、本の整備・管理について情報収集する。

多世代交流事業



取組地区：西岳地区
取組年度：令和2年度
事業主体：西岳地区まちづくり協議会
事業費：684,042円（基金活用額：684,042円）
問合わせ：33-2000

課題・取組みの概要

- 地域交流拠点の場での高齢者が利用しやすい資材・機材が不足していた。
- 空店舗を活用した、西岳米や地域物産等の直売所を兼ねた地域の交流及び活性化を図る場所の充実を目指していた。
- 冷蔵庫、イス、テーブル、手すり付玄関台を購入する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 高齢者が使用しやすい資材を購入したことにより、交流の時間が延びた。
- 事業費圧縮のため、複数社の見積りをとった。
- 高齢者に対する優しい動線確保に努めた。

今後の課題・アドバイス等

- 破損等の状況を使用毎に確認し、高齢者事故が無いように修理及び更新していく。
- 個々の高齢者を考慮して、座る高さの異なるイスを揃える必要がある。

ダンボールアートチャレンジ事業



取組地区：山之口地区
取組年度：平成 30 年度
事業主体：山之口地区まちづくり協議会
事業費：282,780 円（基金活用額：250,000 円）
問合わせ：57-3114

課題・取組みの概要

- 身近なダンボール素材を使った作品に触れ、また、作品作りを体験する。未来を担う子供たちの想像力を高めるとともに、ものづくりの楽しさを伝えることが目的である。
- ダンボールアート作家を招き、子どもたちを対象にワークショップを開催する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 子供たちは、友達と相談しながら、手づくりでものを作ることの楽しさを味わった。
- 作成するものとしては、山之口町ならではの「弥五郎どん」を作製した。

今後の課題・アドバイス等

- 今後、未来を担う子どもたちの想像力を高める事業を検討したい。

平和講演会事業



取組地区：山之口地区
取組年度：令和元年度
事業主体：山之口地区まちづくり協議会
事業費：1,201,121円（基金活用額：1,201,000円）
問合わせ：57-3114

課題・取組みの概要

- 戦後生まれの人口が8割を超えた今、戦争を知らない世代に悲惨な戦争の記憶を伝え後世に語り継ぎ、痛ましい戦争を繰り返さないよう不戦の思いと平和の尊さを学び、次世代に継承する。
- 諸外国では、今なお紛争が絶えず、多くの方が犠牲になっている。その紛争地に赴き惨状を伝えている戦場カメラマン「渡部陽一」氏の講演会を実施した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 戦場カメラマン「渡部陽一」氏を招き紛争地の現状を拝聴し「戦争の悲惨さ平和と命の大切さ」を学ぶ平和講演会を開催し、平和・戦争について学んだ。
- 今回は、将来を担う山之口町内小学校5年生、6年生、山之口中学校全校生徒を対象とした。

今後の課題・アドバイス等

- 今後、小中学生を対象とした各種講演会を計画したい。

ふれあい交流事業・地域支援事業



取組地区：高城地区

取組年度：令和元年度

事業主体：高城地区社会福祉協議会

事業費：333,960円（基金活用額：333,000円）

問合わせ：58-3279

課題・取組みの概要

○当会は、自治公民館ボランティアや民生委員児童委員協議会等の団体等と連携し、にぎわい創出とふれあいと交流の場を提供しているが、地域福祉の推進と地域の活性化を目的に必要な機材の器材を整備するものである。

成果・事業の特徴・工夫したこと

○地域福祉活動支援のために、研修会等で使用するプロジェクターを整備した。また、ボランティアふくしま祭り等のイベントで使用するため、わた菓子機とシャボン玉製造機を整備し、にぎわい創出とふれあいと交流の場に大きく貢献した。

今後の課題・アドバイス等

○若者の人口流出、少子高齢化に歯止めがかからない高城地区において、にぎわい創出、ふれあいと交流の場を多く設けることで、ボランティア活動の推進と社会福祉活動への理解を広めていく必要がある。